

- 東京都江戸川区では、メトロセブン構想(※)に基づく中長期的な取組の一環として、区の南北を縦断するシャトルバス(シャトル☆セブン)を運行しているが、運転者や停留場所が不足し、需要の増加に対応できず乗り残しが発生するなどの課題がある。
 - これらの課題を受け、コロナ禍を契機とした需要の変化や区内人口の高齢化等にも柔軟に対応出来る地域公共交通網を構築するとともに、特に需要の多い環状七号線における利用者利便性を「輸送容量の確保」を通じて向上させるため、利便増進実施計画を作成。
- (※) 環状七号線に沿い、江戸川区・葛飾区・足立区を地下鉄や地上系システム等で結ぶ環状高速鉄道構想

事業の内容

- ① 鉄道空白地で運行するバス路線の「輸送容量」の設定・維持
 - ▷ 時間帯：平日・土休日AM7:00~8:59
 - ▷ 運行回数：路線ごとに、時間あたり輸送容量(人/時)を設定
 - ⇒ 各路線毎に、乗り残しを発生させず、利用者利便性を損なわない輸送容量以上のサービスを提供
 - ▷ ダイヤ：運行回数の設定にあわせ、乗り残し対策に配慮
- ② 交通結節施設における乗降場の改善
- ③ サイクル&ライドの推進、コミュニティ交通の実証運行
- ④ 積極的な情報発信(ホームページやSNS等を活用して、区内の公共交通に関する情報提供を行うポータルサイトを作成。路線情報や利用方法等について、情報提供を実施。)

事業の効果

- ① 安定的な輸送容量の確保により、過度な混雑や乗り残しの改善
 - ②③ 停留所のバス待ち環境や乗り継ぎ利便性の向上
- 全体として、利用者にとって信頼性の高い公共交通を確保することにより、新型コロナウイルス感染症の影響による利用者数減からの早期回復を図る。

- ・作成自治体：江戸川区
- ・実施予定期間：R4年度~R7年度
- ・実施区域：3区域で実施(右図参照)
 - 実施区域A(大杉第小学校~一之江駅)
 - 実施区域B(一之江駅~葛西臨海公園駅)
 - 実施区域C(小岩駅~瑞江駅)

